

不-スタイルな僧侶たち

特集

お寺と奥さまの化学反応

住職と檀家の中に



53



新年早々話題となった僧衣での運転。自身の服装が安全運転に適しているか、僧俗関係なく今一度考えるきっかけになった。運転による悲しい事故を少しでも減らすための力になれるよう、微力ではあるが精進していきたい。外面も無下にはできないが、内面こそが物を言う。安全運転はドライバーの心ひとつにかかっているのだから。何事も「慢心、ダメ。ゼッタイ。」

日常は仏教の実践フィールドだ

仏教が日本に伝わってから1400年以上。いまや、その布教スタイルは多種多様だ。お寺では、音楽バンドの演奏が鳴り響き、プロジェクションマッピングが本堂を鮮やかに彩る。ヨガ教室やマルシェ、修行体験の開催はもう当たり前。バンドやDJ、手品から茶道に武道まで、自分の特技を上手に活用して布教する僧侶も多い。もちろんそこに伝統的な布教も加わる。

様々な試行錯誤により、ここ数年で仏教に触れるための

入り口は増え、その敷居は低くなった。そして、数多くの人が仏教を求め、お寺や僧侶を訪ねていたことは本当に嬉しいことだ。

だが、最近ふと思う。仏教を実践するため、入り口から先に進んでいる人はどれほどいるのだろうか。入り口で満足してしまっている人はいないか？ 進み方が分からず留まっている人はいないか？ そこが仏教の入り口だということにすら気づいていない人はいないか？

仏教は実践していく中で気づきにこそ旨みがあると思う。入り口から進み、出会った様々な仏縁から学んだことを日常に持ち帰って実践する。この繰り返しにより「自分なりの仏教の理解」が生まれるのではないだろうか。

仏教と気軽に接点を持てる今だからこそ、もう一度、現代における仏教の旨みについて考え、伝えていくことができればと思う。

フリースタイルな僧侶たち

宏香さんが手がけた「寺報」の一部が、お寺の壁に飾られていた。すごく魅力的なイラストと文字。温度のある言葉。しばらくその場に立ち止まって、眺めさせていただいた。



お寺と奥さまの化学反応 住職と檀家の中に

早坂宏香さん(曹洞宗・正壽寺)

お寺の奥さま。住職にとっては妻であり、お寺の共同経営者だが、あくまで裏方。僧侶以上にミステリアスな存在ではないだろうか。今回取材したのは、愛知県名古屋市の曹洞宗寺院、金剛山・正壽寺の奥さま早坂宏香さん。「寺報」を任されたことをきっかけに仏教に惹きこまれ、今ではお寺のあり方を考え、日々試行錯誤している。一昔前とは変わりつつあるお寺の奥さまの存在。結婚3年目のフリスタ代表加賀が妻には聞けないことを取材した。

photography & text: Shunyu Kaga

奥さまの感性あふれるお寺

リニア特需で再開発が進む名古屋駅を降りてぶらぶらと歩くこと20分。気づくと周辺は閑静な住宅街に。冬の朝を感じさせない暖かい日差しにぽつぽつ歩いていくところ、ふと大きなお地蔵さまに呼び止められる。その横にはお寺の門が。境内にはご本堂に向けて石畳が続く。あ、ここだ。昔ながらの一軒家に囲まれた少しこじんまりとした場所。今回の目的地、曹洞宗寺院金剛山・正壽寺はあった。

インターホンを鳴らすと、女性の声で「はい！ お入りくださいー」という元気の返事が返ってきた。奥さまかな？ お話ししやすそうだ。一気に緊張がほぐれる。玄関に入らせてもらうと、出迎えてくださったのは、やはり今回取材をさせていただくご住職の奥さま(曹洞宗ではお庫裏さんと言うそう)早坂宏香さんだった。電話で一度お話しただけで、お会いするのは初めて。でもなんとなくイメージしていた通りの元気で笑顔の素敵な方だ。上着は作業衣で下はズボン。お掃除でもされていたんですかと聞きすると、「いつもこの格好ですよ。その方がお檀家さんもお寺に来た気が

がするでしょ(笑)」この気さくさも素敵だ。ひとまずのご挨拶を終えたので、ご本尊にご挨拶をさせていただこうとご本堂に向かう。

金剛山・正壽寺は、文政12年(1829年)に尼寺として開かれ、信者さんの信仰を集めたそう。現在は尼寺ではなく宏香さんのご主人がご住職を引き継いでいる。ご本尊はお釈迦さま。ご本堂も曹洞宗寺院らしい無駄のないシンプルな造りだ。ゆつくり拝ませていただいていると、お檀家さんがご法事のためお越しになられた。取材日は大晦日も迫る12月27日。この時期、駆け込み法事が多いというのは、お寺あるある。だと思ふ。「あら、お早い。ちょっとごめんさい」と席を立つ宏香さん。お檀家さんが予定よりだいぶ早くお寺に来るのも、急な来客で会話が中断するのも、お寺あるあるだ。

どうぞ気にしないでください、と客間で一人待つ。ぐるっと客間を見回していると、床の間に掛けられた軸の横にお正月のお花が活けてあった。これは宏香さんの仕事だろう。テーブルに敷かれたクロスもお洒落な感じ。これもおそらく、宏香さんの感性。出していたいただいたお茶やお

菓子のチョイスもおそらく宏香さん。そう、実はよく見るとお寺には、奥さまの感性があふれている。

そんなことを考えていると、ご本堂の方から奥さまとお檀家さんのやりとりが聞こえてきた。「今日は寒いですねえ」「今日は寒いですけど、ゆつくりお待ちください」「椅子はこちらにありますからね」

お檀家さんとの関係も、いい

意味で遠慮がない自然体という感じ。そのやりとりに耳を傾けていると、急ぎ足で奥さまが戻ってこられた。入れ違いにお勤めのためご本堂に向かうご住職。準備は奥さま、お勤めはご住職と役割分担がしっかりしている。途中、客間をのぞいてくださりご挨拶をくださった。お静かで優しいようなご住職。ご住職にも奥さまのことをお聞きする時間をもらえばよかったな。早速失敗したと反省。



気さくで、自然体。
一気に緊張がほぐれた。



お手本となる仏像の写真を見ながら、下書きもせず、筆ペンでさらさらと描き始める宏香さん。その手慣れた様子に目を丸くした。

「特殊な能力ありますか？」

お茶をいただきながらゆつくと取材を開始した。宏香さんは現在42歳。兵庫県生まれで芸術系の短期大学を卒業後、家業の事務として働く傍ら、大学に研究生として残り（専門は版画）制作活動や個展開催を続けた。描いた絵をウェブサイトに載せていたら、結構有名な乗馬雑誌からイラストを描いてほしいと依頼が来るなど、副業的に絵の仕事もしていたそうだ。

宏香さんとご主人であるご住職との出会いは、2010年の9月。紹介で出会ったお二人は翌年の2月に結納、6月には結婚と、とんとん拍子すぎるくらいに結婚まで進んだ。

こういう取材の機会でもなければ、お寺の奥さまに馴れ初めをお聞きするなんてことはなかなかない。思い切って経緯をいろいろとお聞きしてみた。

ご住職がほとんど話をせず、宏香さんから話題を投げかけても、あまり会話が続かなかった初デート。初めは頑張って話を振っていたそうだが、途中で気を遣わずに黙ってみることにした。すると、それほど沈黙が気にならなかった。

「よくよく考えてみたら、会話お寺に入って、初めて任された仕事だった。」「今思い返してみると、なかなか、お寺に入りたての嫁に寺報を書くなんていう仕事を任せにくいと思うんですが、それを任せてくれた母の懐の深さに感謝ですね」と語る宏香さん。お寺の事務を手伝うことはあっても、なかなか仏教的な学びに触れることが少ないお寺の奥さま。宏香さんは学びと仕事が合わさった、非常に理想的なお寺への関わり方ができたのではないかと感じた。

暮らしの中の仏教を

月一回書くことになったポストカードサイズのイラスト付き寺報。書くとは言ったけれど何



があまりなくなっちゃって、悪いことじゃないんだなって。お互いが無理をしてしゃべらなくても一緒にいられるなら、生活できるかなと思っただけですよね」

それでも最初の頃は不安だったこともあったようで、デートの最後に「もう会うことはないかも」と思いながら「さようなら」と別れたこともあったとか。ところが、すぐに「次はいつお会いしますか」と連絡がきた。そんなやりとりを重ねるうちに、無口で自然体なご住職の、すべてを包み込む優しさを感じたのが、結婚の決め手となったそうだ。

とはいえ、お寺の奥さまになることに抵抗や不安はなかったのだろうか？ 率直に尋ねると「全然なかった」と。これまでお寺とあまり接してこなかったのも、お寺の奥さまになることが大変だとは想像もしておらず、他のお勤めの人と何ら変わらない印象だったとか。

「お寺の奥さまって、そんな特殊な能力ありますか？ もちろん素晴らしい経歴の奥さまもいると思うんですが、なれないものはなれないので。自然体です。です。どんな人だったらやっつけていけないんでしょう？」と逆に質問されてしまい答えに困っ

て書くかは本当に悩んだそうだった。」「とにかく仏教の知識が空っぽだったので、何か体に入れないと何も出てこない」と、本を読むことから始めた宏香さん。カルチャースクールの仏教講座や坐禅と比較するためにヴィパッサナー瞑想（東南アジアの仏教徒に伝わる瞑想）の勉強会などにも参加してみたり、ネットのブログを読んだり、お寺のご住職が参加する勉強会に参加するなど、役に立ちそうなものは手当たり次第に。でも、無理やり難しいことは書けないし、読み手も望んでいないのではと、自分が暮らしている中でこれって仏教かなと感じたことを、読みやすくまとめて書くことにした。

例えば、宏香さんが坐禅を習っている時に感じたことを綴った寺報では、坐禅について細かく説明するのではなく、初めてお座りをした息子の姿勢の綺麗さと自分の力の入った座り方を比較して反省するという、いかにも母親らしい視点で描かれていた。

「それがかえって読み手に寄り添っていて読みやすかったのかな。無理をしなかったおかげで8年間で一回だけ休みましたけど、先日何とか100回を迎えました」

何か体に入れないと、何も出てこない。

た。しまった。こんなところにも、お寺に対する先入観が潜んでいたと反省した。

現在は、小学一年生と年長さん兄弟の母親でもある宏香さん。玄関にかっこいい自転車が二台並んでましたね、とお子さんの話を振ってみた。やんちゃ盛りだが、最近は二人で遊んでくれるから以前よりは手がかからなくなってきたとか。今日は弟は幼稚園に、お兄ちゃんはお寺にいます。うだが、取材の邪魔をしないようにと部屋で遊んでいるそうだ。

初の仕事は、突然の大役

ご住職のお父さまの死によって、お寺の仕事との距離が一気に縮まったという宏香さん。

結婚当初はまだ、お寺以外の仕事も続けながら、土日や行事の時はお寺をお手伝いをするというスタイルだったそう。とはいえ、初めてのお寺の仕事。周囲の動きについていくだけで精一杯だった。しかも、ご住職のお母さまはあまり人に用事を言わないタイプなのか、気を遣われていたのか、わりと放っておかれることが多く、不安が募った。それでも早く仕事を覚えたくて、自分で用事を探して

積極的に関わったと宏香さんは振り返る。

そんな無我夢中の日々の最中、突然、ご住職のお父さまがこの世を去った。その日、普段のお参りから帰ってこられたお父さまは、境内の掃除をする宏香さんいつものように「ありがとねー」と声をかけ、日課のお昼寝に入ったまま帰らぬ人となった。69歳だった。急な伴侶との別れに、ご住職のお母さまはショック状態となってしまう。お檀家さんや近親者への連絡もままならない状況となってしまった。そんな時、宏香さんはお母さまから亡くなったお父さまの似顔絵に感謝の言葉を添えた手紙をみなさんにお送りした。いから力を貸してくれないかと相談されたそう。

「突然の大役だったんですけど、一生懸命、ポストカードサイズの手紙を作成してお送りしました。すると、その手紙が思いのほかお檀家さんに気に入っていただけたみたいで」

「良かった」という声はお母さまにもたくさん届いたそう。で、「このまま月一回、続けてみたら？」と提案された。こうしてお寺の活動や仏さまの教えをお檀家さんに伝える「寺報」の作成が、宏香さんの仕事になった。

継続するために学ぶ。継続は力なりを体現することがどれだけ大切かを教えてもらった。

ならではの視点と工夫で

寺報以外にも宏香さんがきっかけで大きく変わった活動がある。坐禅会だ。なかなか人が集まらなかつたため、一時休止していたお寺の坐禅会。これは、「なんで曹洞宗のお寺なのに坐禅会がないの？」という宏香さんの一言により再開された。

しかしながら、再開してもやはりなかなか人は来ない。それでも、どうしたら来てくれるようになるのだろうかというところを分析を繰り返した。ビジネス街に近いお寺の立地を生かし、ビジネスパーソンの方に来てもらえないかと、時間を出勤前に設定し、朝ごはんのおかゆもセットにした。それにより来てくれる人は一時増えたが、やはり飽きられてしまい、継続しない。それではと、旬の食材を用いた月替りのおかゆにしてみたところ、これがヒット。毎月参加する楽しみが増え、一年二年とリピーターになる人が増えたそうだ。これも参加者の視点を持った奥さまならではの工夫だ。

ここまで、宏香さんの活躍を

中心に取り上げてきたが、「私はずいぶん助けられて恵まれていると思います」とおっしゃる宏香さん。

「私がこうしてみたらということとは、よっぽど住職のポリシーに反しない限りやらせてくれる。そして住職は、やり始めたことはしっかりと継続してやってくれる。私は、思いつくのは得意だけれど継続は苦手です」

これもご住職と奥さまの良い役割分担なのかもしれない。今後やってみたいことは、お寺の奥さまでもできる精進料理の講座とか。

「お寺の奥さまが仏教の教えに根ざした精進料理を学び、お客様さんに気軽に教えていける仕組みができたらいいな。今の問題は、食としての精進料理を学ぶ場はあるけれど、仏教の教えとしての精進料理を学べる場所がなかなかないことだと思っ

ていて……」と、宏香さんの夢は広がる。

なんとなくの習慣の先に

「仏教って、お葬式とか法事でしか触れることがなかったの、亡くなった人のものだと思っていただけで、どう生きていくかということを教えてくれる、生

きていく人のものだと言われてすごい嬉しかった」

そう話す宏香さん。寺報を書くために仏教を学ぶことがそう思わせたのだが、それだけではなく、日常の宏香さんの習慣もそう思わせるのに一役買っていると思う。

実家にいた頃からお仏壇のお世話をしていた宏香さん。お水やお仏飯、お花を替え、掃除をする。なぜだかわからないけれど、すると気持ちがいい。しな

いと気持ち悪いという感覚があり、続けていたそう。

この習慣はお寺に入っても続いた。朝、お勤めをしてご本堂を掃除する。なんとなくやってきたご本尊のお世話がいつからか、仏さまに声をかけてもらう大切な時間となったそう。仏さまは、時には優しく包んでくれる言葉、時には厳しい言葉と、自分の心や体の状態を映す鏡のように毎日言葉をかけてくれる。仏教を学ぶことでその世界観や仏さまについて知り、それにより仏さまの言葉に気づく。学びと実践の相乗効果により、生きる仏教に触れたのだ。

「自分の状況を確認するために、毎日、仏さまのお世話をさせていただいています。だから結局、仏さまのためというより、自分

のためかな？」

これまでお寺との接点がなく仏教の知識はないに等しかった宏香さん。しかし、お寺の奥さまという立場柄、僧侶やお寺を最も近くで見つめることができ、その日常は仏教を体感する場にあふれている。しかも、その中で疑問が生まれれば即座にご主人である僧侶と意見交換もできる。なんとまあ、個別指導の学習塾も真つ青の仏教英才教育だ。

一方、お寺としては、宏香さんが持つ能力を尊重し、宏香さんが感じた疑問や気づき一つひとつに耳を傾けることで、だんだんとお檀家さんや参拝者に寄り添った魅力あるお寺になっていったに違いない。

一昔前なら、電話対応やご住職がいない間のお寺留守番などの寺務、法事や行事の準備、お寺のお掃除など裏方的役割だったお寺の奥さま。これももちろん大切な役割だが、正壽寺と宏香さんの関係は、宏香さんという新たな視点がお寺のあり方とうまく作用しあうことで生まれた、一つの理想的なカタチだと思ふ。

よし、僕も帰りにご機嫌取りのスイーツでも買って、今晚は妻にお寺についてどう思うか聞いてみようかな。

心や体の状態を映す鏡のように、
毎日言葉をかけてくれる。



早坂宏香 (はやさか・ひろか)

1976年兵庫県生まれ。正壽寺寺族。18歳の冬に阪神・淡路大震災を経験、生かされている有り難みを肌で痛感する。学生時代から版画制作に熱中し、神戸と大阪で個展を開く。ひよんなご縁からお寺へ嫁ぐことに。現在、正壽寺のウェブサイトで絵手紙風コラム「寺嫁のひとりごと」を毎月発信し、感じたこと、知ったことをつぶやいている。
<https://www.shoujuji.com>



文／竹林真悟

北海道生まれ。浄土真宗本願寺派僧侶。満誓寺副住職。これまで100カ寺以上に参拝。趣味はガンダム。

お寺でよく見かけるけれど なんだろ“アレ” Vol.7

見たことあるある、でも、よくよく考えてみれば「なに?」「なぜ?」であふれているお寺。そんな「?」を、お坊さんならではの視点でご紹介!

ウィ・ウィル・ロック・ユー



寺名の由来となった壮大な礎灰石(天然記念物)の上に建つ東寺真言宗大本山・石山寺(大津市)。本堂や多宝塔も同じ岩盤に建てられている。

「石なんて、珍しくもなんともないじゃん」
そう、その通り。珍しくもなんともないのが石。しかし、地面から出ている石や岩には数万年前の火山活動や、今なお続いている地殻変動など、そこで起こった地球の様々な出来事が刻まれている。路傍の石も、超有名な石庭の石も、銀砂と呼ばれる白い小石も、どれもこれも地球が生み出したもの。それらが今の形になるまでの、気が遠くなるような時間の経過を想像するのはたまらなく楽しい。

奈良時代以前から続くお寺に行く、時折モノスゴイ石に出くわすことがある。お寺ができた時代背景を想像するに、仏教の言う「正しい八つの道」や読経などの実践よりも、まだまだ神秘性が重んじられた時代だったのだろう。

「なんでこんな形の石が、こんなところに? きっと、精霊が宿っているから、こんな不可解な石が大地から突き出ているに違いない」。そう考えた人々によって守られた巨石信仰が、お寺に取り込まれたのかもしれない。

ところが、平安時代に建立された「貴族寺院」として有名な平等院(宇治市)や浄瑠璃寺(木津川市)、法金剛院(京都市右京区)には巨石信仰は見られない。石はこの時代になると、池を囲んだり、滝の水で土が削られないように置いたりといった実用的な使われ方をしている。

また、巨石信仰がまだ根強かった奈良時代の興福寺や薬師寺(奈良市)、平安時代の延暦寺(大津市)などにも有名な石は見当たらない。むしろ、これらのお寺には庭すら



元禄13年(1700年)に完成をみた日本三名園・岡山後楽園の築山。瀬戸内海に浮かぶ大島産の花崗岩が並んでいる。



岡山後楽園の大立石。大島産の花崗岩で、割って運ばれた園内で元の姿に積み直された。高さ7.5m、周囲23m。

ないのだ。これは、僧侶が勉強や修行をするために建立されたお寺に庭を造る必要性が低かったからだと思う。

鎌倉時代になると一転、禅宗寺院を中心に枯山水庭園が造られるようになる。庭には石が「主人公」として置かれ、紀州青石や阿波青石などのブランド石が登場する。

室町時代といえば金閣寺と銀閣寺(京都市)。どちらにも特徴的な石が庭石として使われている。戦国時代に突入すると、全国各地で武士による造園ブームを迎え、場所によっては、お寺の庭に武士が寄進した石が置かれたり、お寺の庭の設計そのものを武士がしたりするようになる。

そして、泰平の世となった江戸時代、庶民にとって仏教がどんどん身近になってくる

と、造園は街中のお寺や大きな農家でも行われるようになる。これらの庭には、入手が比較的容易であった地方特産の石が使われる。大阪府や奈良県なら生駒石、京都なら花崗岩、和歌山なら紀州青石だ。お寺で見られる、珍しくもなんともない(と、つい思ってしまう)石。実はそれからお寺の宗派が分かるし、そのお寺が建立された歴史的背景も透けて見えちゃうのだ。石を形づくった地球のダイナミックさに思いを馳せるもよし、石の使われ方を見て、そのお寺を建立した人々の苦勞やお寺を支えた彼らの篤い信仰心を肌で感じるもよし。石の前でどんな空想を膨らませてみよう。やがては、お寺好きなあなたの中で、地殻変動を引き起こすかもしれない。



文／メグミ

仏教ファン。フリスタ仏教グッズをつくる! 企画に参加中。通勤音楽は「お経のシャッフル再生」がお気に入り。

イベントレポート 修行体験ブッダニア 2018

体験しなくちゃ始まらない。体感しなくちゃわからない。フリスタが総力をあげて開催したイベント、ブッダニアで知った仏教とは?!



「え! どうしよう! どれも参加したい!」と仏教ファンを悩ます(私はそう思う)修行体験ブッダニアの第二回が11月17日に大阪三津寺さんで開催されました。今回も200名近い方が参加され大盛り上がりでした!

修行といえば、坐禅に写経に……他は? とよくわからないのがお寺&仏教の世界。実はお寺には宗派によって様々な行事や習慣があったり、お坊さんも他の宗派のことはあまり知らないのだから。なんと奥深さ!

ブッダニアは宗派を超えてその奥深い世界の一部を、気軽に体感できる贅沢なイベントなのです。

私が今回体験したのは、お経と食事。お経は退屈そう、なんて思っていたのに異なる3つの宗派のお経を唱えてみたら全然違いました。瞑想してから唱えたり、速いテンポで唱えたり、経本を頭上でパラパラめくって、さらにそれを叩くという驚きの動きも! お経って面白い!

なんとなく食べていた食事もお修行だとは知りませんでした。修行中に行う食事の作法を学びながら集中して食べる

修行体験ブッダニア

修行をテーマにした超宗派の仏教体験(各体験1時間程度)が一度に楽しめる贅沢なイベント。運営スタッフも募集中。次回は9月末、大阪にて開催を予定。詳細はフリースタイルな僧侶たちウェブサイトに掲載していきます。

<http://www.freemonk.net>

とすごく美味しいと感じたし、普段の食事をなんと適当にしていたか……と反省させられました。知って大切。

その他にも、輪になって踊りながらお念仏を唱えたり、護摩焚きの横で仏前結婚式の新郎新婦が記念撮影していたり、「〇宗のお坊さんは!?」と僧侶を探し回り宗派コンプレックスを指摘する人がいたり、展示された108枚の大仏写真に圧倒されたりと、すごい光景が盛りだくさん(汗)

第一回は参加者として、第二回は運営スタッフとして参加した私。第三回もどっぴりブッダニアにつかって、仏教を体感しまくるつもりです。ああ次回も楽しみ!

EVENT info.

フリスタ僧侶がガイドする ちょっとディープな新イベント

寺院散策と仏像鑑賞が 趣味の坊さんとブラブラする

「古都・奈良の春ツアー in 平城」

3月31日(日) 平城宮跡、法華寺、海龍王寺、不退寺



開催時間：12:30～16:00(雨天決行・荒天中止)

参加費：無料

定員：15名

講師：竹林真悟(浄土真宗本願寺派僧侶)

※拝観料、スイーツ代が別途必要です

※集合=近鉄「大和西大寺駅」、解散=近鉄「新大宮駅」

(申) <http://www.freemonk.net/events>

(問) info@freemonk.net

関西に来て24年、趣味の寺院散策で訪れた寺院は100を超えるアラフォー坊さんと奈良をブラブラするツアーです。散策がメインか？ それとも奈良のスイーツ？ 否、メインはなんといってもお寺参拝。まずは平城宮跡を散策し、法華寺、海龍王寺、不退寺を一日で参拝します。現地集合、現地調達、現地解散を原則とするツアー。春は芽吹き季節。お彼岸明けのうらかな春の光を浴びながら、素敵な一日を満喫してみませんか？

みんなで学ぶ お経のことば

「『はんにゃしんぎょう』をそしゃく唱める会」

4月14日(日) 大阪・七宝山大福院 三津寺



開催時間：15:00～17:00(お茶・お菓子休憩あり)

参加費：1,000円(フリスタサポーター 800円)

定員：20名

住所：大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-7-12

担当：若林唯人(浄土真宗本願寺派僧侶)

テキスト：『般若心経・金剛般若経』(岩波文庫)

※筆記用具をご持参ください

※こちらでレジュメを準備しお配りいたしますが、予習されたい方はテキストをお買い求めください

(申) <http://www.freemonk.net/events>

(問) info@freemonk.net

『般若心経』の一つひとつの言葉を丁寧に、噛み砕いて味わう勉強会。浄土真宗の僧侶・若林唯人が担当します。浄土真宗では『般若心経』を唱えないこともあり、このお経をたずねるのは私もこれが初めてのご縁。ご参加いただいた方たちと一緒に、仏教のエッセンスを学べたらなと思っています。初めて仏教を学んでみようかなと思われた方はもちろん、写経や読経で馴染みのある方も僧侶の方も、どなたもお気軽にお越しください。

EVENT info.

これから開催される フリスタ主催イベント

分かち合いで生まれる 豊かな時間

「アラサー僧侶とゆるーく話す会」

3月10日(日) 京都・桃源山 明覺寺



開催時間：14:30～17:00

参加費：1,000円(フリスタサポーター 800円)

定員：10名

住所：京都府京都市下京区平野町783

(申) <http://www.freemonk.net/events>

(問) info@freemonk.net

アラサーのお坊さん数名とゆるーくお話をする会です。話のテーマは、あなたの話したいこと。普段の生活の中でモヤモヤしていることや、とにかく誰かに聞いてほしいことなど、何でも構いません。単純にお坊さんと話してみたいという方、お坊さんの生態や仏教に興味のある方、ただただまったりと時間を過ごしたい方も歓迎です。お茶とお菓子をいただきながらお坊さんと一緒に考えてみませんか。お気軽にお立ち寄りください。

仏教版讃美歌を 唄って学んでみよう！

「ハナ唄になるまでが理想のしょうみょう聲明講座」

4月13日(土) 京都・一念寺



開催時間：15:00～17:00(お茶・お菓子休憩あり)

参加費：1,000円(フリスタサポーター 800円)

定員：20名

住所：京都府京都市下京区柳町324

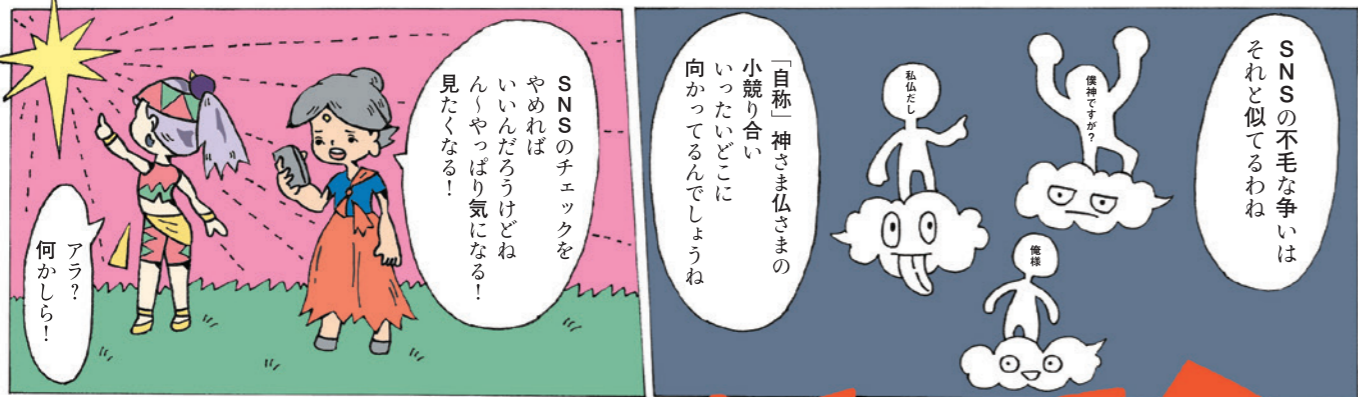
講師：竹林真悟(浄土真宗本願寺派僧侶)

※筆記用具をご持参ください

(申) <http://www.freemonk.net/events>

(問) info@freemonk.net

私たちの身の回りにあふれる音楽のルーツは、宗教音楽にあるといわれています。西洋音楽なら讃美歌、日本では能や狂言、念仏踊りや聲明(唄うお経)がルーツだそう。本講座は、1200年前に日本に伝来した聲明が、あなたのハナからメロディにのって出てくるまでが理想の超ビギナー向け講座です。みんなでお勤めをする、浄土真宗ならではのお経を唱えます。お寺で声を出すことに興味がある方はお気軽にお立ち寄りください。



※ 火宅(かたく)＝煩惱と苦しみに満ちたこの世を、焼けている家に喩えたこと。迷いの世界。

ご支援のお願い

フリースタイルな僧侶たちの活動を
応援して下さるサポーターを募集しています。

スクーターで通り過ぎる姿か、お葬式やご法事。僧侶を見かける
機会はそれぐらいで、有名なお寺以外はなんだか入りにくい。僧侶
としてこの現況を申し訳ないと思うし、もったいないとも思います。

なぜ苦しみは起こるのか。自分も他人も仕合せになるために、い
かに生きればよいのか。2500年にわたり伝わってきた仏教のポテン
シャルは確かで、今を生きる支えになると私たちは信じています。

固定観念にとらわれず、フリースタイルにフリーマガジン・ウェ
ブ・イベントを通して、軽やかに仏教と出会えるように、安らぎや気
づきが得られるように、持てる力を尽くしてまいります。

私たちの取り組みに共感し、応援して下さるサポーターを募集
しています。仏教を身近に、日常に。そして、あなたの生きる力に。
仏教が生きる安らかな社会をご一緒につくっていきましょう。

サポーター特典

- 弊誌を毎月お送りいたします(年間4回)。
- 主催イベントにおいて、優待いたします。
- 法人サポーターの方は、誌面にお名前を掲載いたします。

ご支援くださる方は、下記サイトのフォームにご記入・お申し込みください。
担当者より、振込先などについて折り返しご連絡を差し上げます。
<http://www.freemonk.net/contact/support>

会費振込先

三井住友銀行／園田支店(422)／普通／5092943
フリースタイルな僧侶たち／代表 加賀俊裕

協賛年会費	個人=5,000円 法人=30,000円
-------	----------------------

お振り込みの際、あらかじめ下記のいずれかにご連絡くださいませ。
Tel. 050-5583-4330 E-mail. info@freemonk.net

協賛法人サポーターリスト

浄土宗▶安心院(八幡市)／安楽寺(南丹市)／
延命寺(堺市堺区)／吉祥寺(萩市)／九品寺(京
都市南区)／教安寺(福津市)／慶蔵院(伊勢
市)／光照院(台東区)／金剛寺(京都市東山区)
／西明寺(尼崎市)／西楽寺(京都市伏見区)／
西林寺(大阪府泉南郡)／浄栄寺(東近江市)／
正覚寺(青森市)／正善寺(伊丹市)／勝楽寺
(町田市)／真光寺(今治市)／新善光寺(札幌市
中央区)／崇福寺(甲賀市)／善願寺(甲賀市)／
善道寺(札幌市豊平区)／臺鏡寺(枚方市)／權
王法林寺(京都市左京区)／潮音寺(東京都大
島町)／長壽院(台東区)／梅窓院(港区)／法岸
寺(静岡市清水区)／寶松院(港区)／法善寺(大
阪市中央区)／妙慶院(広島市中区)／無量光寺
(鳥取市)／湯川寺(函館市)／龍岸寺(京都市下
京区)

浄土宗西山禅林寺派▶光明院・田中医院(京都
市中京区)／宝泉寺(津島市)

浄土真宗本願寺派▶光栄寺(井原市)／幸教寺
(大阪生野区)／光照寺(大阪市東淀川区)／
光徳寺(みやま市)／光明寺(奈良県吉野郡)／
西教寺(生駒市)／西方寺(大和郡山市)／西法
寺(北九州市)／浄元寺(尼崎市)／正源寺(大津
市)／正宣寺(大阪市北区)／浄満寺(大阪府西
成区)／信覚寺(福岡県朝倉郡)／崇興寺(福山
市)／養法寺(金沢市)

真宗大谷派▶覚法寺(福岡県八女郡)／称讃寺
(新潟県長岡市)／正蓮寺(伊豆の国市)／超覚
寺(広島市中区)／宝皇寺(函館市)

浄土真宗東本願寺派▶緑泉寺(台東区)

天台宗▶圓融寺(目黒区)／大圓寺(目黒区)／
本覺寺(横浜市鶴見区)

高野山真言宗▶弘法寺(和泉市)／薬師院(岸和
田市)

真言宗豊山派▶寶積寺(松山市)

真言宗御室派▶三津寺(大阪市中央区)

真言宗須磨寺派▶須磨寺(神戸市須磨区)

臨濟宗妙心寺派▶円光寺(台東区)／宜雲寺(江
東区)／勝林寺(豊島区)／陽岳寺(江東区)／龍
雲寺(世田谷区)

臨濟宗建長寺派▶歸一寺(静岡県賀茂郡)／東
光禅寺(横浜市金沢区)

曹洞宗▶四天王寺(津市)／瑞生寺(浜松市中
区)／南詢寺(守口市)／鳳仙寺(宮城県亶理郡)

日蓮宗▶池上實相寺(大田区)／法華寺(亀岡
市)／妙海寺(勝浦市)／妙見寺(橋本市)

時宗▶正法寺(京都市東山区)

単立▶五百羅漢寺(目黒区)／瑞聖寺(港区)／
法然院(京都市左京区)

企業・団体・店舗▶アールアンドダブルユー(京
都市中京区)／アンカレッジ(港区)／遠藤新兵
衛商店(京都市下京区)／カントワン(京都市
中京区)／京美仏像(京都市北区)／京念珠ゼに
や(京都市下京区)／薫寿堂(神戸市)／作島(京
都市下京区)／茶坊えにし(台東区)／寺院コム
(京都市左京区)／翠光堂阪急淡路駅前店(大
阪市東淀川区)／大正大学(豊島区)／学校法
人鎌西学園(熊本市中央区)／豊田愛山堂(京
都市東山区)／一般社団法人日本石材産業協会
(千代田区)／はせがわ(文京区)／浜屋(姫路
市)／福生(堺市西区)／Flucle(大阪府都島区)
／坊主BAR 縁(岐阜市)

*敬称略・五十音順

フリースタイルな僧侶たち Vol.53

2019年2月1日発行
発行人 加賀俊裕

発行所 フリースタイルな僧侶たち
〒542-0085
大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-7-12
☎050-5583-4330

編集
若林唯人・光澤裕顕・飯村絵理子

デザイン
梅本龍青

企画協力
竹林真悟・飯野顕志・福山智昭・久松彰彦
福田瑞規・河村英昌・水戸智舟・財津宏経

www.freemonk.net

フリースタイルな僧侶たち×フェリシモおてらぶのネットラジオ

「くらしの本音ラジオ すっぴん寺」放送開始!

ふだん社会で生きていく中で、少しずつ気を使ったり、聞きたいことが聞けなかったり……見栄や建前といった心のお化粧を落として、暮らしの中で感じている悩みやハテナを思い切ってお坊さんに聞いてみよう、話し合ってみようというラジオ番組です。「フリースタイルな僧侶たち」と「フェリシモおてらぶ」のメンバーが、毎回お坊さんやゲストを迎えているいろいろなテーマをもとにトークしていきます。



第1回テーマ

「納得いかない話」

2月8日(金) 公開

第2回テーマ

「後悔している話」

2月22日(金) 公開

*インターネットラジオですので、お好きな時間にゆるりとお聴きいただけます。

お悩み・質問を募集!

毎回トークテーマにちなんだりリスナーの皆様のお悩みや質問を募集します。

ご投稿▶ https://oterabu.felissimo.co.jp/suppin_form.html

ラジオはこちらから

【フェリシモおてらぶ】

<https://oterabu.felissimo.co.jp>



心といのちの電話相談室

☎ 03-3436-6823

相談受付 毎週月曜日・金曜日 10:00～16:00 (祝日、盆、年末年始は休業いたします)

あなたを支えたいと
願う人がいます。
つらいお気持ち
おはなしてください。

「心といのちの電話相談室」の特徴

研修を受けたお坊さん、
お寺の奥さんがお話を伺います

多彩なご相談に対応します

周囲の方もご相談ください

「心といのちの電話相談室」の約束

秘密は必ず守ります

勧誘はしません

無料でお受けします

「心といのちの電話相談室」事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 公益財団法人 浄土宗ともいき財団 内
TEL.03-3436-3353 FAX.03-5472-4878 ホームページ <http://tomoiki.jp/>

詳しくは

心といのちの電話相談室

検索